

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達成目 標)	パクベン郡の幼稚園および小学校の学習環境が改善し、少数民族の子どもたちに適した授業が行われるようになる。 3年事業の2年目として、幼稚園の教室建設や教材支給、教師トレーニング等を継続し、幼稚園および小学校の学習環境は改善され、児童の基礎学力も伸びた。2年次は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、学校も休校となる期間が長かったが、教師トレーニングや各教師への直接指導の結果、教師の指導力は向上した。少数民族の子どもたちへの教授法を実践できている幼稚園教師の割合は、評価を行った6つの幼稚園で事業開始前の45%から94%に増加した(1年次:90%)。また、小学校においても、評価を行った9つの対象校の小学校1年生教師の100%が教授法を実践できていることが確認できた(1年次:34%)。また、就学準備コースを行った幼稚園のない小学校の児童の学力は、活動前の2020年3月時点では100点満点中18点であったところ、2022年1月の年度末調査時には、46点と点数が伸びた(1年次:41点)。保護者の家庭での教育への協力やジェンダー平等への理解なども着実に向上し、今期の目標を達成している。 パクベン郡の公立小学校に併設された幼稚園3園の学習環境が改善する。 幼稚園3園の教室建設、教材支給、教師トレーニングを通じて、3園の幼稚園の学習環境が大きく改善した。これまで小学校の狭い空きスペースを利用していた学校では、幼稚園の教室ができたことで子どもたちが定期的に幼稚園に来るようになり、活動の幅も広がったことが教師インタビューを通じて確認されている。施設管理維持に関するトレーニングを通して各園の学習環境が改善する体制が整備されたほか、当事業のスタッフが学校への定期訪問を通じて教室の状況を確認しており、必要に応じて教師に対する施設の維持管理に関する指導を行っている。 (上位目標)パクベン郡の少数民族の子どもたちが学習に適した環境下で教育を受け、基礎学力を身に付ける。 上記の通りプロジェクト目標を達成しており、教師の能力、子どもたちの学力が向上している。また、郡レベルの教育・スポーツ局の職員と常時活動を共にし、職員の能力も向上していることから、活動対象校に留まらずパクベン郡全体の教育の質の向上に繋がっていると考えられ、将来に亘り少数民族の子どもたちの基礎学力の向上に貢献しうる。
(2) 事業内容	各活動の進捗状況は以下のとおり。 1. 幼稚園の教室建設と教材支給 1-1. 教室建設および衛生設備整備 計12社からの入札を受け、教室建設の業者を選定するための入札委員会(県および郡レベルの教育・スポーツ局職員、郡副知事、プラン職員)は、2021年1月21日に首都ヴィエンチャンにて業者選定会議を開き、合意された基準に沿って業者を選定した。 2月より対象園のロンセーン幼稚園、ホイサンカム幼稚園、コンバン幼稚園の3園において幼稚園の建設を開始。4月26日より新型コロナウイルス感染防止のため村を越える移動が政府により禁止され、建設を一旦停止したが、5月21日以降の外出緩和にあわせて再開し、6月に完成した。夏休みおよび学校閉鎖期間を経て、9月21日より3園において、幼稚園

	児童 91 人、教師 4 人、校長/園長 3 人が新施設の使用を開始した。 10月28～29日に建設を行った3園において引き渡し式を開催し、ロンセーン幼稚園およびホイサンカム幼稚園に1教室、トイレ1棟（2個室、手洗い場1か所）、コンバン幼稚園に2教室とトイレ1棟（4個室、手洗い場1か所）を引き渡した。コンバン幼稚園の手洗い場の数については、事業変更報告書第1号の通り、手洗い場2か所を1か所に訂正して建設した。 なお、郡の水道水が通っていないコンバン幼稚園において水質検査を実施したところ、水質がよくないことが判明した。学校には水質について説明し、飲み水として使用しないよう伝えた。 1－2. 施設管理者トレーニングの実施 2021年2月1日～3日の3日間に建設対象校のロンセーン幼稚園、ホイサンカム幼稚園、コンバン幼稚園の3園それぞれにおいて1日間の建設の進捗管理に関するトレーニングを県・郡レベルの教育・スポーツ局職員と共に開催した。村落教育開発委員会メンバー計13名（うち女性4名）、教師計8名（うち女性3名）が出席し、建設施設のデザイン、スケジュール、建設中の役割分担の確認や具体的なモニタリング方法の説明を行った。村落教育開発委員会メンバーは、日常的に建設のモニタリングを行い、懸念事項があれば郡レベルの教育・スポーツ局職員およびプラン職員に報告することに合意した。 7月15日～16日に施設管理維持に関するトレーニングをロンセーン幼稚園、ホイサンカム幼稚園、コンバン幼稚園の3園それぞれにおいて、郡レベルの教育・スポーツ局職員1名（うち女性0名）と共に開催した。村落教育開発委員会メンバー計14名（うち女性2名）、教師計5名（うち女性3名）、保護者17名（うち女性3名）が出席し、各村において施設を管理、維持していくための体制を決定し、各園の予算から修繕費を確保することを確認した。 1－3. 学習教材、図書、玩具、備品の支給 新型コロナウイルス感染症の影響により支給時期が遅れたが、2021年6月～11月にかけて1年次より支援を行っている9箇所の幼稚園に学習教材、図書、玩具を支給した。2年次より支援を行った12箇所の幼稚園には、学習教材、図書、玩具、備品を支給した。 また、事業変更報告書第3号の通り、9月の新学期再開にあわせて、児童用マスクを幼稚園21園、小学校30校の計2,985人（うち女兒1,444人）に支給した。2年次より支援を行った12箇所の幼稚園・小学校には、感染予防に関する啓発用ポスターも支給した。 2. 教師トレーニング 2－1. 活動計画ワークショップ 2021年1月14日、教育・スポーツ省、県・郡レベルの教育・スポーツ局職員、外務省職員、郡副知事・職員計20名（うち女性11名）と共に定期連絡会議を開催し、事業の進捗状況および成果と課題を共有し、今後の計画についての調整を行った。
--	--

	1月27日～28日、県・郡レベルの教育・スポーツ局職員、県副知事11名（うち女性6名）と共に、30箇所の学校長、村落教育開発委員会の代表者計58名（うち女性6名）を対象に活動計画ワークショップを開催した。ワークショップは、1年目からの対象校と2年目からの対象校の2グループに分かれてそれぞれ開催。1年次の成果と課題を確認し、2年次の計画を共有した。 7月14日、県・郡レベルの教育・スポーツ局職員、県の外務省職員、郡副知事・職員23名（うち女性9名）と共に定期連絡会議を開催し、2年次前半の事業進捗および課題の共有と後半の活動計画の確認を行った。 2-2. 幼稚園・小学校教師トレーニング 2021年2月4日～5日、ジェンダー平等の推進に関する理解を深めるために、プラン職員がトレーナーとなり、教師トレーニングのトレーナーとなる県・郡レベルの教育・スポーツ局職員計9名（うち女性7名）とプラン職員に対してトレーニングを実施した。 2月15日～19日、1日間の準備日の後、2年次より支援を行う12校の小学校1年生教師および学校長計25名（うち女性5名）に対してラオス語教授法、ジェンダー平等の推進、ポジティブ・ディシプリン（褒めて伸ばす教育法）に関するトレーニングを県・郡レベルの教育・スポーツ局職員9名（うち女性5名）と共に実施した。 3月10日～16日、1日間の準備日の後、2年次より支援を行う12校の幼稚園教師および学校長計21名（うち女性12名）に対して、幼稚園の新カリキュラムと子ども中心型の新指導要領、ジェンダー平等の推進、ポジティブ・ディシプリン（褒めて伸ばす教育法）についてのトレーニングを県・郡レベルの教育・スポーツ局職員6名（うち女性5名）と共に実施した。 3月23日～26日、1日間の準備日の後、1年次より支援を行う6園の幼稚園教師計6名（うち女性6名）に対して、幼稚園の新カリキュラムと子ども中心型の新指導要領、ジェンダー平等の推進、ポジティブ・ディシプリン（褒めて伸ばす教育法）についてのリフレッシュ・トレーニングを県・郡レベルの教育・スポーツ局職員6名（うち女性5名）と共に実施した。実施にあたっては、「2-3. 幼稚園教師の直接指導」を通して確認した教師の理解や実践が十分でない分野に焦点をあてた。具体的には、授業計画策定、子どもの発達に関する評価とモニタリング方法、教室の環境づくり、補助教材の活用など。 4月6日～9日、1日間の準備日の後、1年次より支援を行う18校の小学校1年生教師計18名（うち女性7名）に対して、ラオス語教授法、ジェンダー平等の推進、ポジティブ・ディシプリン（褒めて伸ばす教育法）に関するリフレッシュ・トレーニングを県・郡レベルの教育・スポーツ局職員6名（うち女性2名）と共に実施した。各校の教師の理解や実践が十分でない手法に焦点をあててトレーニングを行った後、最終日には2グループに分かれ、参加者の所属する小学校2校を訪問し授業観察を実施。改善点や学びなどについて話し合い、教師同士で意見交換を行った。 8月2日～3日、幼稚園教師向けに行う複式学級教授法のトレーナーを担う県および郡レベルの教育・スポーツ局職員8名（うち女性6名）および
--	--

	プラン職員に対してトレーニングを行った。教育・スポーツ局職員の紹介により、既に複式学級教授法を実践しており経験豊富なルアンパバーン県の教育・スポーツ局職員2名をトレーナーとして招き、トレーニングを行った。 8月9日～13日、授業を複式学級で行っている16の幼稚園の教師および校長32名（うち女性21名）に対して、複式学級教授法のトレーニングを、県および郡レベルの教育・スポーツ局職員8名（うち女性7名）と共に行った。新型コロナウイルス感染症の影響下にあるため、感染予防のために2グループに分かれ、少人数でトレーニングを行った。複式学級運営に関する技術等を学んだ後に、複式学級教授法に基づく授業計画の策定や教授法の練習などを行った。 9月22日～24日、1日間の準備日の後、5園の幼稚園の教師、校長16名（うち女性14名）に対して、幼稚園の新カリキュラムと子ども中心型の新指導要領、ジェンダー平等の推進、ポジティブ・ディシプリン（褒めて伸ばす教育法）についてのリフレッシャー・トレーニングを県・郡レベルの教育・スポーツ局職員5名（うち女性5名）と共に実施した。補助教材の活用法や教室の環境づくり、学校運営などについて取り上げた。 11月15日～20日、1日間の準備日の後、事業変更報告書第5号の通り、30校の小学校1年生の教師30名（うち女性11名）を対象に2グループに分けてそれぞれ3日間の小学校向けの複式学級トレーニングを郡レベルの教育・スポーツ局職員6名（うち女性2名）と共に実施した。複式学級運営に関する技術を学んだ後に、複式学級教授法に基づく授業計画の策定や教授法の練習などを行った。 2－3. 幼稚園教師の直接指導 郡レベルの教育・スポーツ局職員およびプラン職員は、2021年2月、9月、10月に対象校21園各園を3回または4回訪問し授業観察を行い、それぞれの教師の状況にあわせて指導を行った。国レベルの教育・スポーツ省職員および県レベルの教育・スポーツ局職員も、特に指導力に課題のある4園における授業観察に2月に参加し、指導を行った。 事業変更承認申請書第1号の通り、新型コロナウイルス感染症の影響により4月末から6月中旬および8月末から9月中旬の計約2カ月半に亘り活動を停止したため、当初各園6回の直接指導を予定していたが、各園3回または4回の実施となった。また、事業変更承認申請書第1号および第2号の通り、小グループによる勉強会は12月に延期して1回実施することを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できず、活動を中止した。 事業変更報告書第5号の通り、小学校教師への直接指導を2020年12月、2021年9月、11月に対象校30校各1～3回訪問し授業観察を行い、それぞれの教師の状況にあわせて指導を行った。 3. 保護者の啓発と就学準備コースの実施 3－1. 保護者向け啓発セッション 対象村30村の各村において、保護者に対し、1. 就学前教育および小学
--	---

	校教育の重要性、2. 図書を利用した読み聞かせ等家庭における子どもの教育、3. ジェンダー平等、4. 子どもとの適切な接し方の4つのテーマについて啓発セッションを行った。2021年1月、2月、6月～12月に計111回実施し、のべ1,497名（うち女性968名）が参加した。 3-2. 夏休み期間の就学準備コース 2021年6月～8月に開催する就学準備コースを運営する9村の教師およびコミュニティボランティアに対して、6月14日～20日の7日間のトレーニングを県および郡レベルの教育・スポーツ局5名（うち女性4名）と共に実施。14名（うち女性2名）の教師およびコミュニティボランティアが参加した。 就学準備コースは、6月28日～8月27日の9週間に実施した。当初は10週間の実施を予定していたが、事業変更報告書4号の通り、新型コロナウイルス感染症の影響による移動の制限により、9週間での実施となった。9月に小学校1年生にあがる5歳児93名（うち女児44名）が参加したほか、5歳児の人数が少ない学校においては、4歳児および小学1年生を留年することになった児童6名（うち女児1名）も参加した。コースではラオス語や算数の基礎的な知識を学んだ。 3-3. 年次末調査 事業変更承認申請書第2号の通り、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年次内に年次末調査を行うことができず、3年次にて実施することとした。
--	---

(3) 達成された成果	指標に基づく現在までの進捗状況は以下のとおり。 1. 幼稚園の教室建設と教材支給 〈期待される成果〉 幼稚園の教室の整備や教材・図書支給を通して、子どもたちが学習に適した環境下で教育を受けることができるようになる。また、教師や地域住民が新しい教室を維持管理する能力を身に付ける。 〈指標および達成状況〉 ● MOES の基準に合った教室で授業を受ける子ども : 【指標】 2 年次対象 3 校で現在 0 人 → 51 人 【成果】 2 年次対象 3 校で現在 0 人 → 91 人 : 178 % 達成 * 他村から通う子どもや 3 歳児および 4 歳児の子どもも通学しているため、指標を上回る数の子どもたちが新しく建設した教室で授業を受けている。 ● 学校で適切な衛生・給水設備を使う子ども : 【指標】 2 年次対象 3 校で現在 0 人 → 51 人 【成果】 2 年次対象 3 校で現在 0 人 → 91 人 : 178 % 達成 * 他村から通う子どもや 3 歳児および 4 歳児の子どもも通学しているため、指標を上回る数の子どもたちが新しく建設した衛生・給水設備を使用している。 ● 施設管理者トレーニングの事後テストで 80 % 以上正解する教師と VEDC メンバー : 【指標】 70 % 【成果】 80 % : 114 % 達成 上記「1. 幼稚園の教室建設と教材支給」の各指標に関する成果は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 4 (4.2、4.a)、目標 5 (5.1) の達成に貢献する。 2. 教師トレーニング 〈期待される成果〉 教師トレーニングへの参加を通して幼稚園教師および小学校教師の能力が向上し、より少数民族の子どもに適した授業が行われる。 〈指標および達成状況〉 ● 教師トレーニングで学んだカリキュラムや教授法を理解し、事後テストで事前テストより平均点が上がる割合 : 【指標】 15 % 【成果】 54 % (事前テストの平均点は 44.28 点であったところ、事後テストの平均点は 68.17 点に改善された) : 360 % 達成 ● 少数民族の子どもに第 2 言語としてのラオス語指導を行う教師 : (幼稚園教師) 【指標】 65 % 【成果】 94 % : 144 % 達成 ● 少数民族の子どもに第 2 言語としてのラオス語指導を行う教師 : (小学 1 年生教師) 【指標】 70 %
--------------------	--

	【成果】 100% : 142%達成 ● ラオス語の授業の中で、週に3冊以上の児童図書の読み聞かせを行う教師 : 【指標】 70% 【成果】 33% : 47%達成 未達成の理由 : 週に3冊以上の児童図書の読み聞かせを行うことは「2. 教師トレーニング」の中で指導してきたが、カリキュラムに入っていないため十分に実践されていなかった。3年次には教師トレーニングの中で図書の読み聞かせの重要性を改めて強調すると共に、「2. 3 幼稚園教師の直接指導」を通して、各教師が実践しているかを確認し、指導する。 上記「2. 教師トレーニング」の各指標に関する成果は、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標4（4.2、4.5、4.c）、目標5（5.1）の達成に貢献する。 3. 就学準備コースの実施と保護者の啓発 〈期待される成果〉 保護者が就学前教育や小学校教育の重要性に関する理解を深め、家庭における学習環境を改善する。また、夏休み期間の就学準備コースを通して、少数民族の子どもたちが小学校入学前に必要な基礎学力を身に付ける。 〈指標および達成状況〉 ● 子どもの学びにつながる遊びや語り聞かせを家庭で週1回以上行った保護者 : 【指標】 30% 【成果】 93% : 310%達成 ● ジェンダー平等と褒めて伸ばす教育について理解する保護者（ジェンダー平等） : 【指標】 75% 【成果】 81% : 108%達成 ● ジェンダー平等と褒めて伸ばす教育について理解する保護者（褒めて伸ばす教育） : 【指標】 55% 【成果】 75% : 136%達成 ● 幼稚園児の基礎学力テストで、1年次1回目のテストより平均点が上がる割合 : 【指標】 20% 【成果】 157% : （ベースライン調査の平均点は18.01点であったところ、2年次末評価の平均点は46.38点に改善された） 785%達成 ● 就学準備コース修了後、遅れなく1年生に進学する子どもの割合 : 【指標】 100% 【成果】 100% : 100%達成 ただし、コース終了後に家族と共に一時的に移転した女兒1名は除く。
--	--

	● 就学準備コースに参加した子どもと参加していない子どもの遅れなく1年生に進学した比率（目標の設定なし） 就学準備コースに参加した子ども：100%（計93名、うち女児44名） 就学準備コースに参加していない子ども：該当なし（対象地域の全ての児童がコースに参加） 就学準備コース開始前に「3-1. 保護者向け啓発セッション」を行い、就学準備コースへの参加を促し、対象村9村の全ての子どもが就学準備コースに参加したため、比較対象となる就学準備コースに参加していない子どもはいない。 上記「3. 就学準備コースの実施と保護者の啓発」の各指標に関する成果は、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標4（4.2、4.5、4.C）、目標5（5.1）の達成に貢献する。 ● 幼稚園21園（5歳児クラス）の就学率、修了率、中途退学率（目標の設定なし） <table><tr><th></th><th>5歳児 (2020-2021)</th><th>5歳児 (2021-2022)</th></tr><tr><td>就学率</td><td>85.99% (女児83.95%、男児88.16%) ※2020年10月時点データ</td><td>92.55% (女児93.85%、男児90.91%) ※2021年10月時点データ</td></tr><tr><td>修了率</td><td>99.37% (女児100%、男児98.64%) ※2021年6月時点データ</td><td>—</td></tr><tr><td>中途退学率</td><td>0.63% (女児0%、男児1.36%) ※2021年6月時点データ</td><td>—</td></tr></table> *新型コロナウイルス感染症の影響で、2年次内に成果の測定ができなかったため、上記の数字は3年次開始直後に実施した「3-3. 年次末調査」において取得したデータを含む。		5歳児 (2020-2021)	5歳児 (2021-2022)	就学率	85.99% (女児83.95%、男児88.16%) ※2020年10月時点データ	92.55% (女児93.85%、男児90.91%) ※2021年10月時点データ	修了率	99.37% (女児100%、男児98.64%) ※2021年6月時点データ	—	中途退学率	0.63% (女児0%、男児1.36%) ※2021年6月時点データ	—
	5歳児 (2020-2021)	5歳児 (2021-2022)											
就学率	85.99% (女児83.95%、男児88.16%) ※2020年10月時点データ	92.55% (女児93.85%、男児90.91%) ※2021年10月時点データ											
修了率	99.37% (女児100%、男児98.64%) ※2021年6月時点データ	—											
中途退学率	0.63% (女児0%、男児1.36%) ※2021年6月時点データ	—											
(4) 持続発展性	幼稚園の教室建設を行ったロンセーン幼稚園、ホイサンカム幼稚園、コンバン幼稚園においては、施設管理者トレーニングを通して、園および村落教育開発委員会メンバーによる維持管理の体制を決定し、各園の予算から修繕費を確保することを確認した。3年次の活動を通して、各校を定期的に訪問しながら、維持管理の体制が機能しているか引き続き確認していく。 また、各トレーニングやワークショップにおいては県および郡レベルの教育・スポーツ局が中心となるトレーナーとしての能力を強化できるよう活動している。3年次には、小グループでの勉強会を開催し、教師が相互に学びあう体制を作り持続発展性を高めていく。												